

『本多勝一はこんなものを食べてきた』

— ショウチャとその仲間たち

一九三八年(昭和一三)秋、信州伊那谷大島村——から物語は始まる。

「まきわりだ!」「わーい!」ショウチャ(本多勝一少年、本名はホンダショウイチ、それでショウチャ)や、遊び仲間で一ツ年上の大親友であるヨネチャ、その弟のキイチやたちが駆けつける。

「お父ちゃ、ゴトウムシおる?」「おるぞ!」「ゴトウムシがおつたらオレ一番!」「そいじゃー オレが二番!」「ダメ、オレが二番だに!」

お父ちゃがまきを割ると、なかからゴトウムシが出てきた。お母ちゃに火鉢で焼いてもらって、「あち、あち、あち」「あまーい」その晩、ゴトウムシの夢を見た……。

それにしても、いろいろなものを食べている。ざつと挙げただけでも、ゴトウムシ、スイコンボ、ヒビ、ハチの子、ノビル、塩イカ、五平餅、オコゲ、お葉づけ、ドジョ

四六版、並製  
400 ページ  
定価 1800 円十税  
七つ 森書館

ウ、カワニナ、キイチゴ、シマヘビなどなど、その数約九十種類。

本多さんより約二十歳年下、団塊の世代の私が食べたことのあるものを数えてみたら、約半分だった。今の子どもたちは……数え上げても十指に満たないだろう。いや、もう見ようにも食べようにも、姿を消してしまったものの方が多い。

そしてもう一つ、失われてしまったものに、濃密な人間関係がある。叱られることも愛情表現の一つ。ショウチャもお父ちゃの前に正座させられて、コンコンと諭されている。それで言うことを聞くかというとなかなか、また正座させられることになる。

本書は本多さんも編集委員のひとりとなっている「週刊金曜日」に連載された漫画を単行本化したもの。堀田あきお、堀田佳代二夫妻が秀逸な漫画を描いている。

(S・S)

本多勝一は  
こんなものを  
食べてきた

